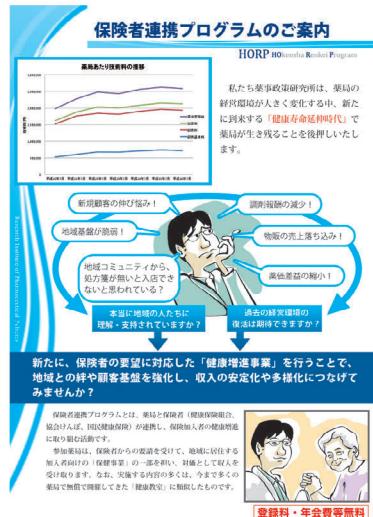


薬局と健康保険組合等が協力し健康支援事業を展開 地域との関係構築で健康相談薬局としての活用も

薬局を地域の健康情報拠点として活用する方向に期待感が高まっている一方、現状の処方せん調剤に著しく特化した状況から一足飛びに地域住民の健康支援に変更することは到底できるはずもなく、多くの薬局・薬剤師は“その絵姿は理解できるが道筋が見えない”ことに頭を悩ませている。政府や行政は昔ながらの薬局をイメージさせるものの、現状ではそのような薬局を探すこと自体、苦労があるのは否めない。そんな中、健康保険組合等と薬局が連携し、保険加盟店の健康支援に薬局を活用しようとする画期的な研究発表が先の日本薬学会で行われた。薬局は保険者から紹介を受けるかたちで地域の保険加入者の保健事業の一部を担う格好で、地域と薬局を保険者が取り持つことで、地域生活者に薬局の活用を促すものとして注目を集めそうだ。薬学会での発表を紹介する（一部既報）。



店舗での検証結果を発表

薬局と健康保険組合等が協力して加盟者の健康を支援する「保険者連携プログラム」は、保険薬局経営者連合会および薬局経営者有志により設立された『薬事政策研究所（薬研）』が中心となって模索されている。先日神戸で開催した日本薬学会で発表された小規模・地域限定の実証実験では、みどり薬局・坂口眞弓氏、プライマリーファーマシー・山村真一氏、地球堂薬局・田代健氏、山本保健薬局・山本新一郎氏の4薬局が参加したことによって、共和薬品工業の阪本大介氏の連名で検証結果がプレゼンされた。

今回の実証実験では日本航空健康保険組合がレセプト・健診データを分析し、参加薬局の近隣に在住する保険加盟店を抽出して参加を呼びかけ、対象者中13人が薬局訪問に同意。薬局訪問に際して保険者は参加者を「服用に問題のある者」「前期高齢者」「健診未受診者」に分類し、健保側としての狙いなどに沿って薬局に振り分けた。健康相談を実施した後の薬局に対する印象変化などを尋ねた（表1）。

薬局での対応状況では、ほとんどのケースで待合室や相談コーナー、別室で指導を実施し、薬局側が事前

に用意したテキストを薬剤師・管理栄養士が参加者に協働で話すスタイルで、参加薬局によると「質疑応答も含めて非常に活発かつ和やかに行われ、多くの相談者が予定時間を超過した」との手応えにあった。

参加者からは前向きな意見も

参加者アンケートでは「参加して良かった」77%、「まあ良かった」23%で参加者全員から前向きな回答が寄せられ、その理由では「新たな知識が得られた」「薬局で相談できる」ということがわかった」が半数を超えた。薬学会でアンケート結果を発表した坂口氏のみどり薬局では、正しい服薬への理解増進を尋ねると「とても深まった」23%、「深まった」69%で9割以上の参加者が回答。また体調異変時の相談相手としての薬局についても「軽重問わず相談」30.8%、「軽ければ相談」53.8%などとなっており、また「今後の健康相談相手として薬局を活用するか」との問い合わせでは84.6%が「する」と答え、いずれのアンケートでも8割を超す参加者が薬局に対する見方が前向きになったことが示された。

一連の相談会を実施した考察では、背景としてそもそも保険者と薬局の結び付きがこれまで全くない中で、参加者の満足度も高く、保険者の期待度も高いという好結果が示された。また薬局側としては普段から実施している服薬指導の範囲で対応可能だったため、特段の問題がなくスタートできるなど、参加者・保険者・薬剤師のいずれも新しい手法に充実感が得られた

表2

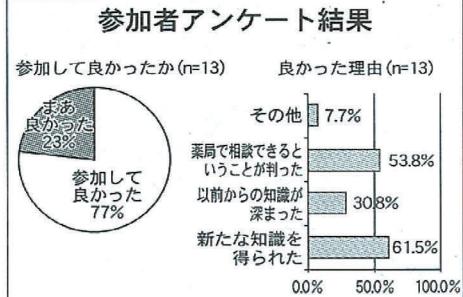
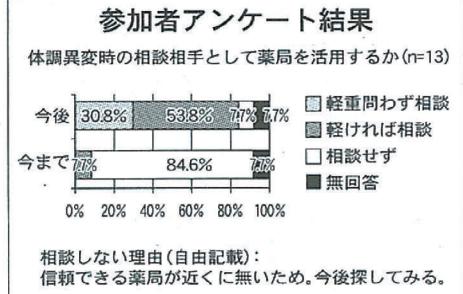


表3



模様だ。

その一方、今回のような保険者が薬局に対象者を紹介する手法に至るために、「薬局における地域活動に対する意識の向上が必要」と指摘しており、薬局の本来業務である地域貢献に対し、今以上に参画する積極性が求められることを言及。実証実験を試みた薬研では全国で2500薬局の活動参加を計画する。

保険者の紹介による薬局活用というアプローチはこれまでにない斬新なコラボレーションであり、参加者からも上々の手応えが示された「保険者連携プログラム」。言わずもがな、保険者との協力ということは医療費削減という数値を持った効果が示され、薬局に対する風当たりが強い昨今の状況を勘案すると、薬局・薬剤師の業務成果エビデンスとしても期待が寄せられる展開も視野にあるという。本格稼働に向け、引き続き同事業は注目したいところだ。

(構成・小幡)

健保が抽出した対象者の分類

対象者の分類	①服薬に問題のある者	②前期高齢者	③健診未受診者
対象者の特徴	多剤服用、頻回受診、高額薬剤費等	65歳を超えたばかりで、過去に生活習慣病で通院歴がある/メタボと診断されたことがある	1年以上健診を未受診
対象者に対する健保としての長期的狙い	服薬適正化による、薬剤費の適正化	前期高齢者になっても医療費増大を遅らせる	次回健診を受診させる
薬局に期待された相談の内容	薬の副作用リスクや、薬を一元的に管理することの重要性等。	65歳を超えると医療費が増大する傾向にあること、それに備えた生活習慣改善、等	健診の重要性等